



# 中電工

**株式会社 中電工**

2022 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

2021 年 11 月 25 日

## イベント概要

---

|          |                                              |
|----------|----------------------------------------------|
| [企業名]    | 株式会社 中電工                                     |
| [企業 ID]  | 1941                                         |
| [イベント言語] | JPN                                          |
| [イベント種類] | 決算説明会                                        |
| [イベント名]  | 2022 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会                     |
| [決算期]    | 2021 年度 第 2 四半期                              |
| [日程]     | 2021 年 11 月 25 日                             |
| [ページ数]   | 31                                           |
| [時間]     | 10:00 – 10:45<br>(合計：45 分、登壇：25 分、質疑応答：20 分) |
| [開催場所]   | インターネット配信                                    |
| [会場面積]   |                                              |
| [出席人数]   |                                              |
| [登壇者]    | 1 名<br>代表取締役社長 迫谷 章（以下、迫谷）                   |

---

### サポート

|         |              |         |                         |
|---------|--------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 03-4405-3160 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744 | メールアドレス | support@scriptsasia.com |



## 登壇

---

**迫谷：**皆さん、こんにちは。中電工、社長の迫谷でございます。このたびは、2021 年度第 2 四半期決算説明会にご参加をいただき、誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、初めに、2021 年度第 2 四半期の業績および 2021 年度の業績予想について、続いて、中期経営計画の取り組み状況について説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

第 2 四半期と通期の業績予想の概要でございますが、第 2 四半期は大型工事の進捗の遅れなどにより、減収・減益となりましたが、通期では遅れを解消し、増収・営業利益増益の予想といたしております。

---

### サポート

|         |              |         |                          |
|---------|--------------|---------|--------------------------|
| 日本      | 03-4405-3160 | 米国      | 1-800-674-8375           |
| フリーダイヤル | 0120-966-744 | メールアドレス | support@scriptsasias.com |



## 第2四半期業績および通期業績予想（事業環境と当社グループの概況）

### 建設業界

- 公共設備投資は底堅く推移
- 受注競争や労働者不足が継続
- 一方、コロナ禍の影響により、民間設備投資の縮小や先送りが懸念

### 当社グループの状況

- 中期経営計画2024がスタート
- 中国地域の基盤強化や都市圏の事業拡大、業務改革の推進などに取り組む

それでは、2021 年度第 2 四半期の業績についてご説明いたします。

まず、2021 年度の事業環境と当社グループの概況についてですが、建設業界は、公共設備投資は底堅く推移したものの、受注競争や労働者不足が継続し、コロナ禍の影響により、民間設備投資の縮小や先送りが懸念される状況にありました。

こうした中、当社グループは、創立 80 周年である 2024 年度をターゲットとした中期経営計画 2024 を策定し、中国地域の基盤強化や都市圏の事業拡大、さらに業務改革の推進などの諸施策を進めてきております。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## 第2四半期業績および通期業績予想【実績】(損益計算書:連結)

### 対前年度「減収・減益」

- 売上高は減少（中電工個別▲40億円減、連結子会社▲9億円減）
- 営業利益も減少（中電工個別▲7億円減、連結子会社▲1億円減）

| 連 結 業 績                        | 2020年度<br>第2四半期 | 2021年度<br>第2四半期 | 増減額 | 前年比  |
|--------------------------------|-----------------|-----------------|-----|------|
| 売 上 高                          | 820億円           | 771             | ▲49 | 94%  |
| 売 上 原 価                        | 711億円           | 671             | ▲40 | 94%  |
| 売上総利益<br>(13.4%)               | 109億円           | 100<br>(13.0%)  | ▲9  | 92%  |
| 販 管 費                          | 76億円            | 77              | 0   | 100% |
| 営 業 利 益<br>(4.0%)              | 32億円            | 23<br>(3.0%)    | ▲9  | 71%  |
| 経 常 利 益<br>(5.4%)              | 44億円            | 33<br>(4.3%)    | ▲11 | 74%  |
| 親会社株主に帰属する<br>四半期純利益<br>(3.6%) | 29億円            | 16<br>(2.1%)    | ▲13 | 56%  |

※( )内は売上高利益率

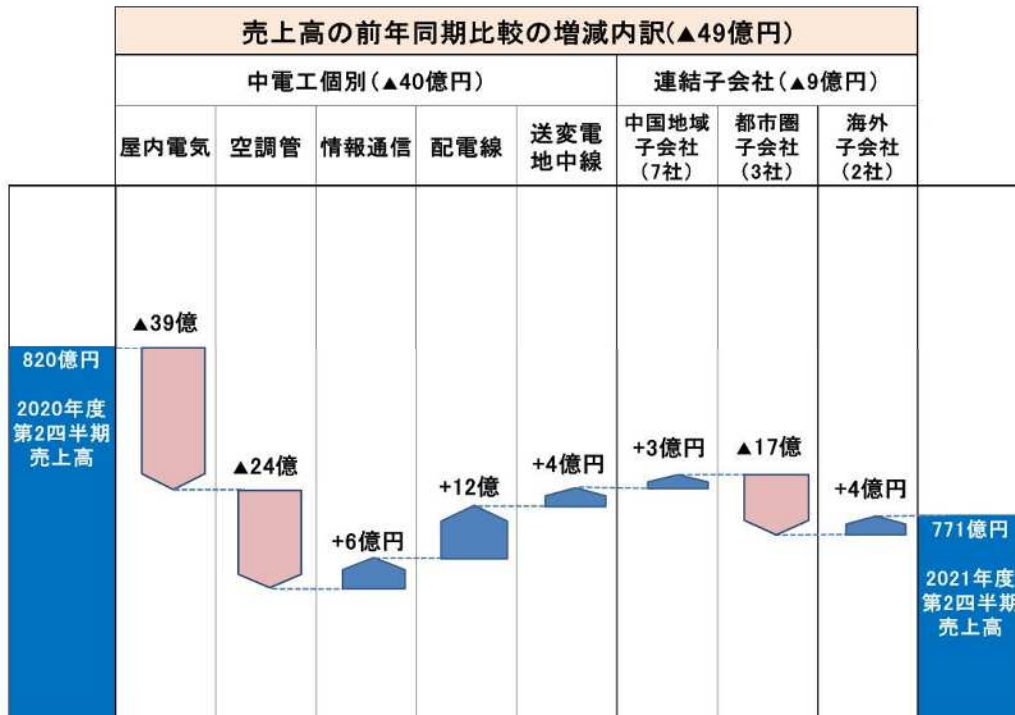
この結果、2021 年度第 2 四半期の業績は、売上高は、中電工個別では一部大型工事の進捗の遅れや、屋内電気工事の減少により 40 億円の減。また、連結子会社も 9 億円減少したため、前年比 49 億円減の 771 億円となりました。

次に、営業利益は、売上高の減少により売上総利益が減少し、9 億円減の 23 億円、経常利益は 11 億円減の 33 億円、四半期純利益は経常利益の減少に加え、株式評価損を計上したことなどから、13 億円減の 16 億円となりました。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

## 第2四半期業績および通期業績予想【実績】(売上高の増減要因:連結)



6

Copyright©2021 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、前年同期との売上高の差を見ますと、中電工個別では、配電線などが増加したものの、屋内電気や空調管の減少が大きく、前年比 40 億円の減。また、連結子会社は、中国地域で 3 億円、海外も 4 億円増加いたしましたが、都市圏で大型工事の遅れなどで 17 億円減少し、前年比 9 億円の減収となりました。

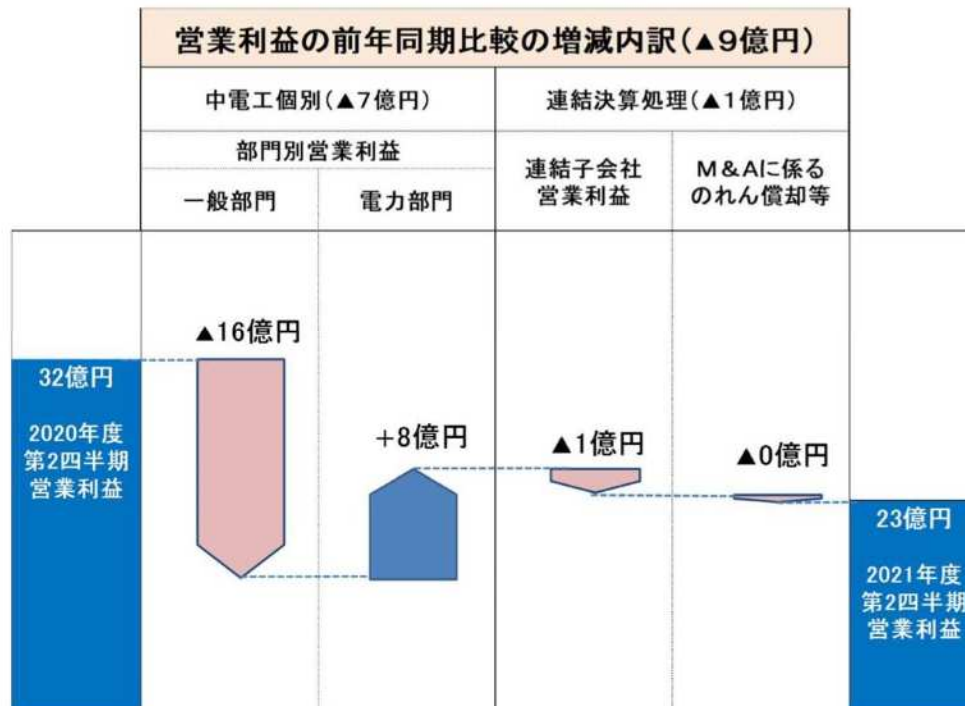
以上から、売上高は前年度の 820 億円に対し、今年度 771 億円と、49 億円減少いたしました。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 第2四半期業績および通期業績予想 【実績】(営業利益の増減要因:連結)



7

Copyright©2021 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、営業利益の前年同期との差を見ますと、中電工個別では、売上高が伸びた電力部門で8億円増加いたしましたが、一般部門で16億円減少し、7億円減益となりました。

連結決算処理については、のれん償却が前年度とほぼ同額で、連結子会社の営業利益が若干減少したため、1億円減益となりました。

以上から、営業利益は前年度の32億円に対し、今年度23億円と、9億円減少いたしました。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 第2四半期業績および通期業績予想【実績】(貸借対照表:連結)

|         | 2021年3月末 | 2021年9月末 | 増 減  | 主な増減要因                 |
|---------|----------|----------|------|------------------------|
| 流動資産    | 1,082億円  | 978      | ▲103 | 完成工事未収入金等 ▲169         |
| 固定資産    | 1,682億円  | 1,692    | 9    |                        |
| 資産合計    | 2,765億円  | 2,671    | ▲94  |                        |
| 流動負債    | 439億円    | 378      | ▲61  | 支払手形等 ▲58<br>未払法人税等 ▲7 |
| 固定負債    | 137億円    | 139      | 2    |                        |
| 負債合計    | 577億円    | 517      | ▲59  |                        |
| 純資産合計   | 2,187億円  | 2,153    | ▲34  | 利益剰余金 ▲12<br>自己株式 ▲10  |
| 負債純資産合計 | 2,765億円  | 2,671    | ▲94  |                        |
| 自己資本比率  | 77.6%    | 79.5     | 1.9  |                        |

次に、貸借対照表でございます。

資産合計の 2,671 億円は、完成工事未収入金等が減少したことなどで 94 億円減少いたしました。  
純資産合計は、利益剰余金が 12 億円減少したことなどで、2,153 億円と、34 億円減少しました。

なお、自己資本比率は自己資本が減少したものの、総資産の減少が大きく、前年度末の 77.6%から 1.9 ポイント増加して、79.5%となりました。

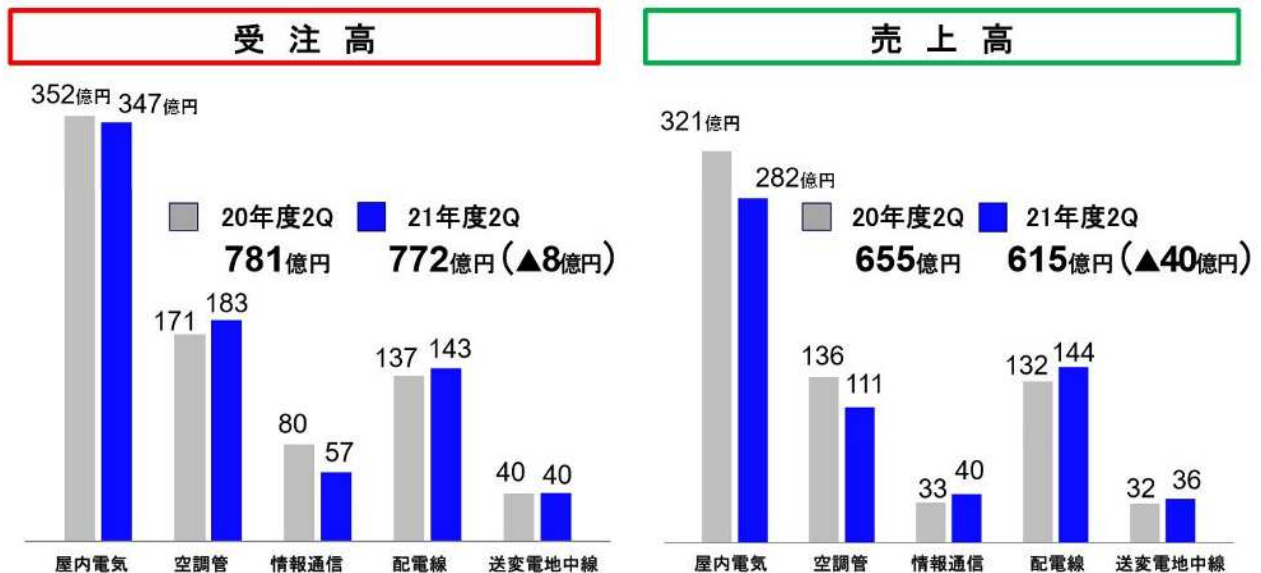
### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 第2四半期業績および通期業績予想【実績】(部門別受注高・売上高:個別)

- 受注高は、772億円と対前年度▲8億円減（主に情報通信が減少）
- 売上高は、615億円と対前年度▲40億円減（主に屋内電気と空調管が減少）



9

Copyright©2021 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、中電工個別の部門別の受注高と売上高でございます。

左側の受注高は、全体で 772 億円と、前年度と比べ 8 億円減少しました。

空調管は、物流倉庫などの工事が増加し 12 億円増加しましたが、情報通信は GIGA スクールなどの大型工事が減少したことで 22 億円減少しました。

右側の売上高は、配電線、送変電地中線といった電力部門や情報通信は増加したものの、屋内電気は事務所工事が、空調管では学校空調工事が減少したことなどにより、全体で 615 億円と、前年に比べ 40 億円減少しました。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

## 第2四半期業績および通期業績予想【予想】(損益計算書:連結)

### 「増収・営業利益増益」の見込み

- 売上高は増加(中電工個別15億円増、連結子会社29億円増)
- 営業利益は、売上高増加に伴い売上総利益の増加を見込み増益

| 連 結 業 績                 | 2020年度実績 |         | 2021年度予想 |       | 増減額 | 前年比  |
|-------------------------|----------|---------|----------|-------|-----|------|
|                         |          |         |          |       |     |      |
| 売 上 高                   |          | 1,844億円 |          | 1,890 | 45  | 102% |
| 営 業 利 益                 | (5.1%)   | 94億円    | (5.1%)   | 97    | 2   | 102% |
| 経 常 利 益                 | (6.5%)   | 118億円   | (6.2%)   | 117   | ▲1  | 98%  |
| 親会社株主に帰属する<br>当 期 純 利 益 | (4.4%)   | 81億円    | (3.6%)   | 68    | ▲13 | 84%  |

※( )内は売上高利益率

続いて、通期の業績予想です。

冒頭申し上げましたように、第2四半期は減収・減益でしたが、通期の業績連結業績は、増収・営業利益増益を見込んでおります。

売上高は、第2四半期までの遅れを解消し、中電工個別で15億円、連結子会社で29億円増加し、前年比45億円増の1,890億円を見込んでいます。

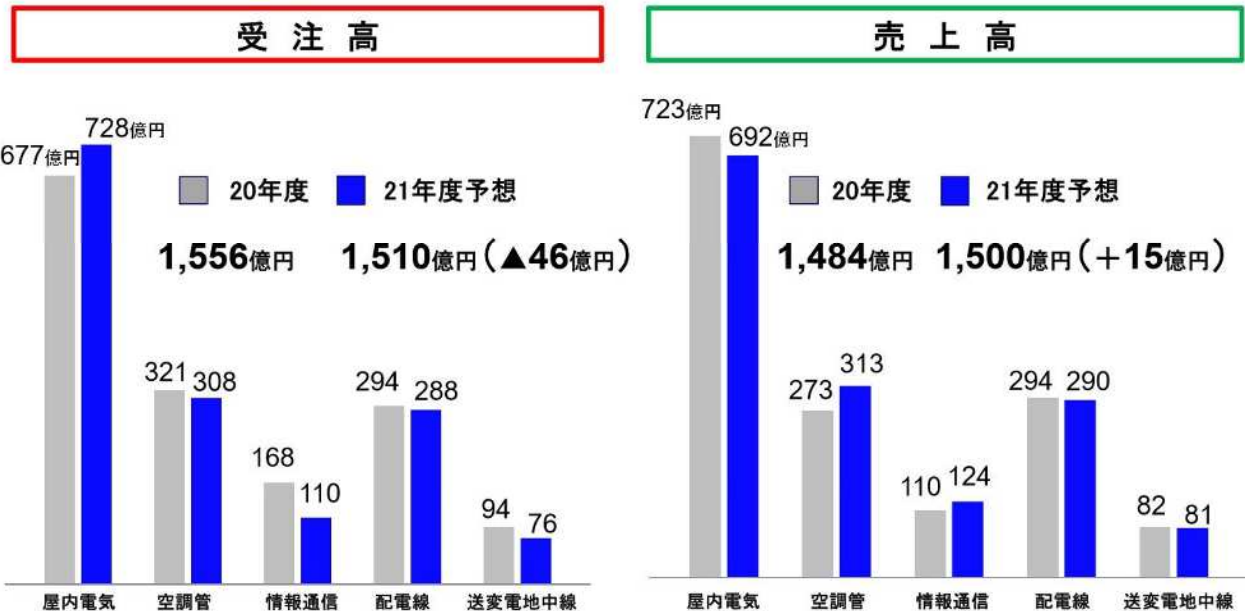
営業利益も売上高の増加に伴う売上総利益の増加を見込み、2億円増加の97億円、経常利益は1億円減少の117億円、当期純利益は、昨年あった有価証券売却益がないことや、株式評価損の計上により、13億円減少の68億円を見込んでいます。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

## 第2四半期業績および通期業績予想【予想】(部門別受注高・売上高:個別)

- 受注高は、▲46億円減少の見込み（主に情報通信の減少）
- 売上高は、15億円増加の見込み（主に空調管の増加）



12

Copyright©2021 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、個別の部門別受注高と売上高でございます。

左側の受注高は1,510億円と、前年度より46億円減少を見込んでいます。これは、屋内電気は増加するものの、情報通信が前年度大幅に増加した反動減になることなどによるものであります。

一方、右側の売上高は、屋内電気は減少しますが、空調管が遅れを解消し、前年度より15億円増となることなどにより、1,500億円を見込んでおります。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



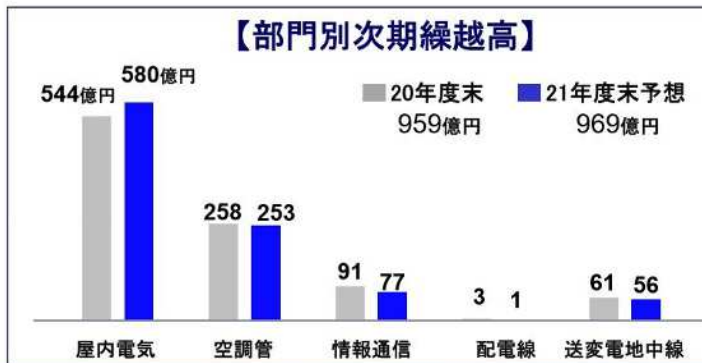
## 第2四半期業績および通期業績予想 【予想】(受注高・売上高・繰越高:個別)

➤ 受注高は前年度を下回るものの、売上高は前年度を上回る予想

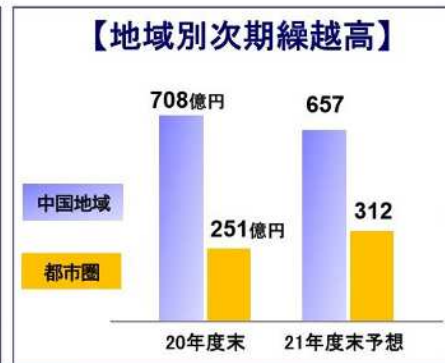
### 【受注高・売上高の推移】



### 【部門別次期繰越高】



### 【地域別次期繰越高】



13

Copyright©2021 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、個別の受注高・売上高の推移です。

折れ線グラフのとおり、21年度の受注高は、前年度には届かないものの、1,510億円と、依然高い水準を維持する見込みです。

売上高は前年度を上回る想定であり、直近5年では最高となる1,500億円を見込んでおります。繰越高は中国地域では減少するものの、都市圏の伸びが大きく、前年比10億円増の969億円となる見込みであります。

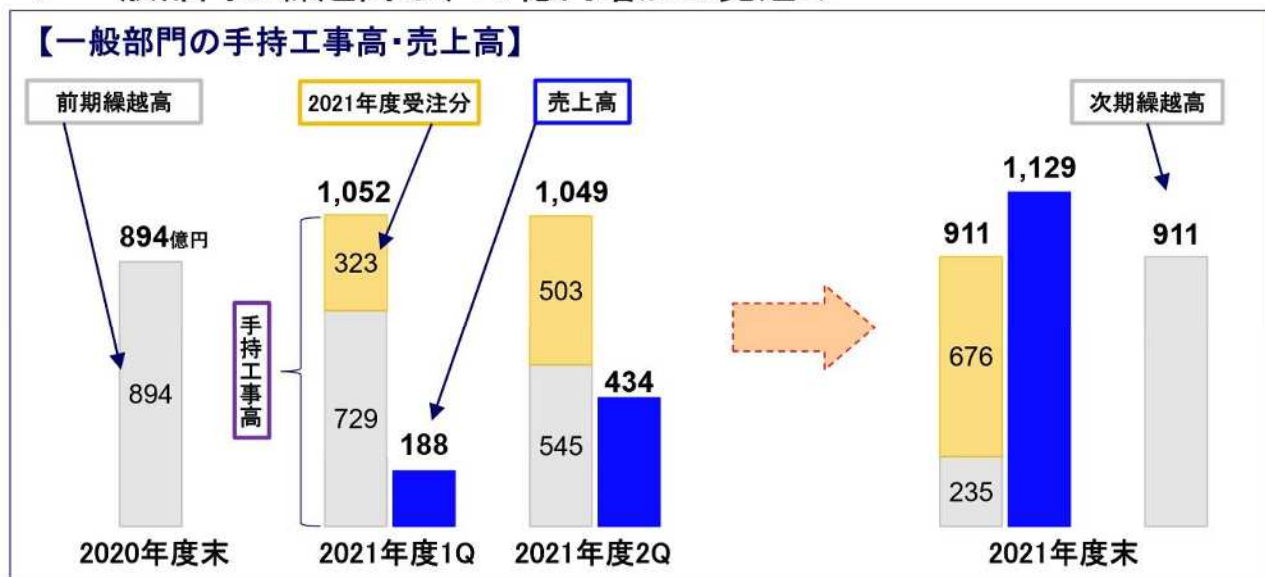
## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

## 第2四半期業績および通期業績予想【予想】(手持工事高・売上高:個別)

➤ 一般部門の繰越高は、17億円増加の見込み

### 【一般部門の手持工事高・売上高】



$$\text{手持工事高} = \text{前期繰越高} + \text{当年度新規受注高}$$

Copyright©2021 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

次に、この図は、一般部門の当年度期首から期末までの手持工事高と売上高の推移を示しています。

手持工事高は、前期からの繰越高と新規受注高で構成され、第2四半期の手持工事高は1,049億円、売上高は434億円です。

今後、工事が完成し、年度末では売上高は1,129億円、一方、繰越高は減少していきますが、新たな受注により、手持工事高は911億円を見込んでいます。これにより、来年度への繰越高は、前年度末の894億円より17億円の増加を見込んでいます。

一般部門は、当受当完が主である電力部門とは異なり、次年度の売上高の約8割の手持工事高をもって次年度を迎えることとなります。

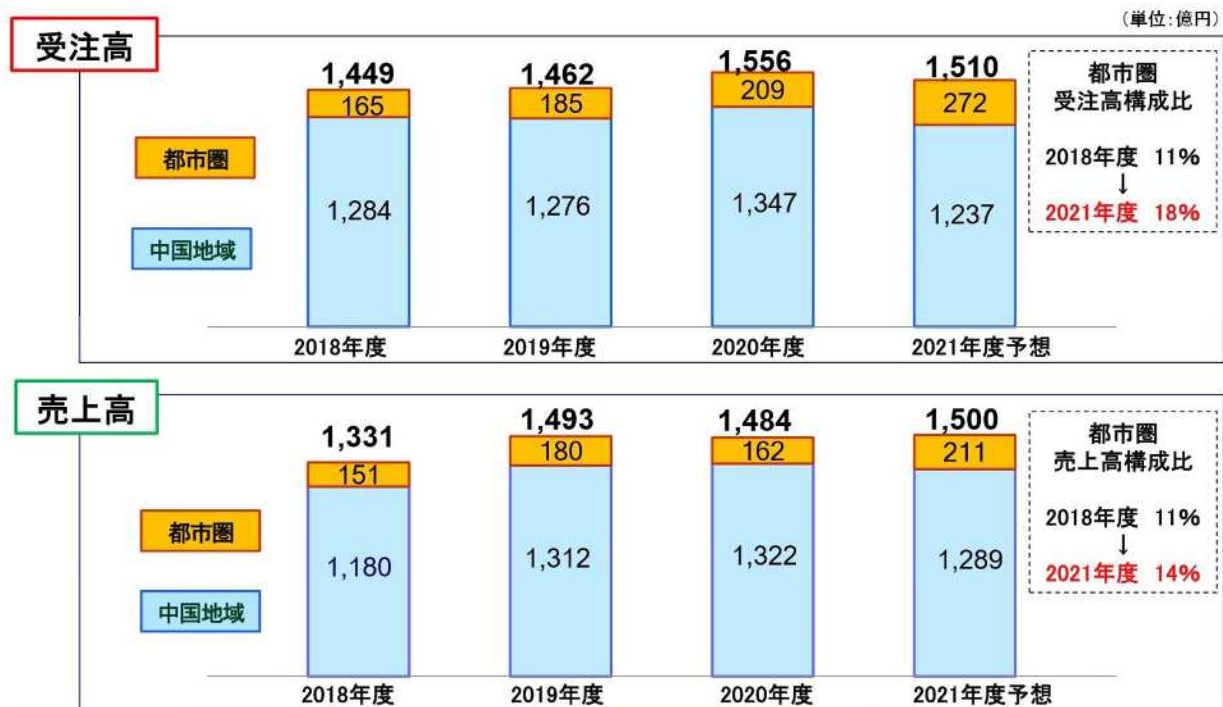
### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 第2四半期業績および通期業績予想【予想】(地域別受注高・売上高:個別)

### ➤ 中国地域の売上を維持しつつ、都市圏を拡大



15

Copyright©2021 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、個別の地域別受注高と売上高です。

成長戦略として、中国地域の売上を維持するとともに、都市圏の拡大を進めてきております。

青色で示した中国地域の受注高・売上高は1,200億円から1,300億円をしっかりと維持する一方、都市圏の受注高・売上高は着実に増加してきており、21年度の売上高は前年比49億円増の211億円、売上高に占める割合も3年前の11%から14%へと着実に増加をしております。今後も、中国地域の受注を維持しつつ、都市圏の拡大を図ってまいります。

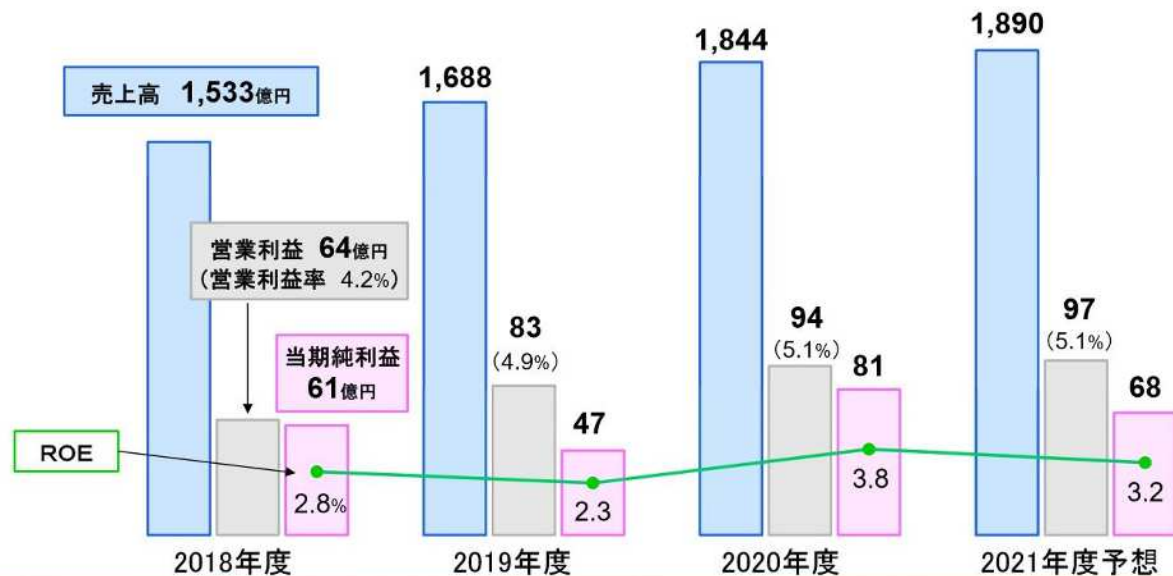
## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 第2四半期業績および通期業績予想 【予想】(主な経営指標の推移:連結)

- 売上高は10期連続の増収、営業利益は3期連続の増益の見込み
- 営業利益率は前年並み、ROEは低下の見込み



16

Copyright©2021 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、主な経営指標でございます。

青の棒グラフ、売上高は2012年度から増収が続き、当年度の1,890億円で10期連続の増収となる見込みです。

グレーの営業利益は、前年度比3億円増の97億円と、3期連続の増益。また、営業利益率は厳しい競争の中、効率化や原価低減に努め、5.1%を確保しています。緑色のROEは、当期純利益の減少により、0.6ポイント減少の3.2%を見込んでいます。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 中期経営計画2024（テーマ・サブテーマ）

### テーマ

#### 「変革と成長」

- 当社グループが引き続き成長を続けていくためには、これまで以上に環境変化に迅速に対応して変革を進めることが不可欠

### サブテーマ

#### 「営業・施工体制の強化と利益の拡大」

- 中国地域の基盤強化、都市圏の体制強化・事業拡大
- 厳しい環境にあっても利益を確保・拡大できる体制の強化・競争力強化

#### 「DXと脱炭素化の推進」

- DXによる生産性向上を推進
- SDGsやカーボンニュートラルへの対応
  - ・自社の脱炭素化
  - ・お客様への脱炭素化支援事業の推進（自家消費型太陽光PPA事業など）

続きまして、中期経営計画 2024 を説明いたします。

中期経営計画 2024 は、5 月の決算説明会でもお話しさせていただいておりますが、現在の取り組み状況も踏まえてご説明をいたします。新たに策定した中期経営計画は、創立 80 周年の節目となる 2024 年度をターゲットに、さらなる成長に向けた 4 カ年の計画とし、今年の 4 月にスタートいたしました。

テーマは、引き続き「変革と成長」とし、新たに二つのサブテーマを設定いたしております。一つは「営業・施工体制の強化と利益の拡大」、二つ目は「DX と脱炭素化の推進」であります。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

## 中期経営計画2024（主要施策）

|                                                                                                    |                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>受注の拡大・施工体制の強化</b>                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 営業力の強化による受注拡大</li> <li>◆ 実績データの分析やBIM等を活用した設計力の強化・向上</li> <li>◆ 施工体制の強化・拡充</li> </ul>            |
| ⇒営業本部・技術本部・購買部が連携し、大型物件の受注拡大を図る<br>⇒地中線工事と送変電工事を送変電地中線工事に一本化し、施工体制を強化                              |                                                                                                                                           |
| <b>利益の確保・拡大と競争力強化</b>                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 工事の平準化やフロントローディング等による施工の効率化</li> <li>◆ 全社およびグループ企業と連携したコスト低減</li> <li>◆ DXの推進による生産性向上</li> </ul> |
| ⇒フロントローディングによるリスクヘッジや工場加工品等を採用し原価低減<br>⇒DX推進プロジェクトで各部門が取り組むタスクを抽出し、アクションプランを策定<br>⇒DX推進プロジェクトの体制強化 |                                                                                                                                           |
| <b>人材育成の強化と働き方改革の推進</b>                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施工管理の強化に向けた人材育成</li> <li>◆ グループ全体での技術・技能者の確保・育成</li> <li>◆ 働き方改革の継続および実践、働きがいのある職場の形成</li> </ul> |
| ⇒建設業に罰則付き時間外労働上限規制が適用となる2024年度を1年前倒し、2023年度での目標達成をめざした「働き方改革中期アクションプラン2024」を策定                     |                                                                                                                                           |

次に、中計の五つの主要施策と取り組み状況について説明いたします。

一つ目の受注の拡大・施工体制の強化については、提案営業の強化による大型物件の受注拡大、今後拡大が見込まれる地中線工事の体制強化、協力会社との連携強化に取り組んでおります。

二つ目の利益の確保・拡大と競争力の強化については、施工面ではフロントローディングやIT機器の活用による効率化、工場加工品等の採用による原価低減に取り組んでいます。また、DX推進プロジェクトを設置し、全社を挙げて効率化、生産性の向上に取り組んでおります。

三つ目の人材育成の強化と働き方改革の推進については、これまで進めてきた業務改革に加え、DX推進など、生産性を上げることで、時間外労働の上限規制を1年前倒ししてクリアするよう取り組んできております。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

## 中期経営計画2024（主要施策）

|                                                                                                       |                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 品質の向上                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 電力安定供給への確実な貢献</li> <li>◆ お客様満足度の向上</li> </ul>                                        |
| ⇒ 日々の高経年化工事に加え、自然災害や緊急工事への迅速な復旧対応<br>⇒ 工程内検査や機能確認検査などの品質管理体制を充実・強化                                    |                                                                                                                               |
| 成長投資（M&A・出資等）による事業拡大                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自社の脱炭素化</li> <li>◆ 脱炭素化支援として環境関連ビジネスの推進</li> <li>◆ 施工体制の強化等に向けたM&amp;Aの推進</li> </ul> |
| ⇒ 自社社屋への自家消費型太陽光発電の設置は、全体で56カ所を予定。2021年度は21カ所に設置予定<br>⇒ 自家消費型太陽光PPA事業やZEB化およびESCO事業について、お客様に積極的に提案を実施 |                                                                                                                               |

四つ目の品質の向上については、工程内検査や機能確認検査を行うための管理体制を強化し、品質の確保に努めております。また、電力関係では緊急時の迅速な対応を行うため、電力ネットワークとの連携強化に努めております。

五つ目の成長投資による事業拡大については、中計期間内で400億円の投資枠を設けて、M&Aや再エネなどへの投資を検討してきております。また、当社の脱炭素の取り組みとして、事業所に太陽光発電設備の設置を進めています。また、これと併せて、お客様へのPPA事業を推進いたしております。

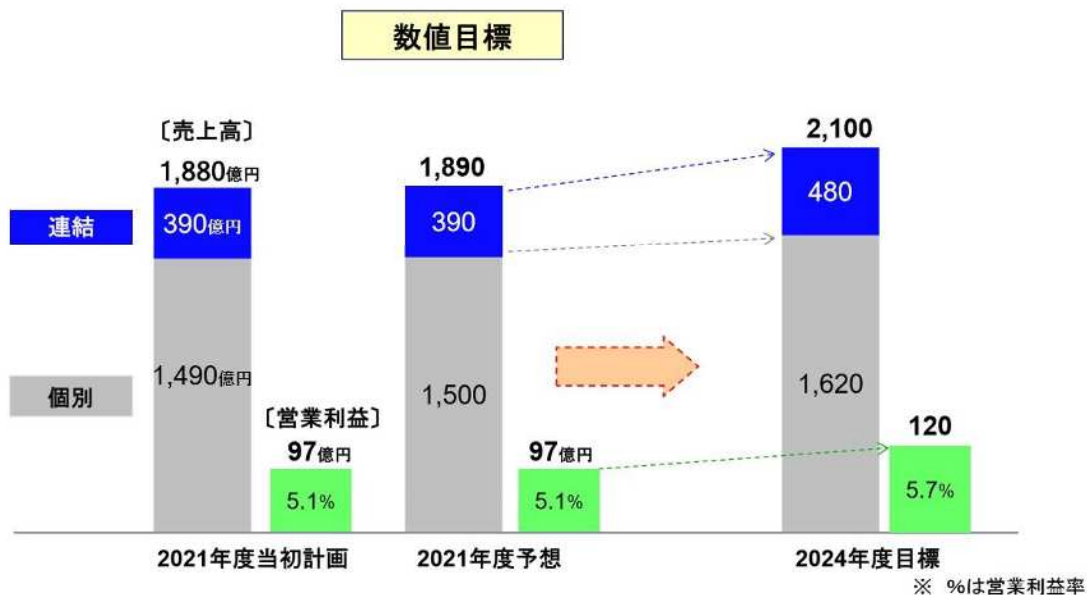
### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 中期経営計画2024（数値目標:連結）

- 「中期経営計画2024」を、グループ一体となって取り組み、目標達成  
⇒2024年度目標 売上高2,100億円、営業利益120億円



21

Copyright©2021 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、中期経営計画の数値目標です。

最終年度である2024年度の連結売上高2,100億円、連結営業利益120億円、連結営業利益率5.7%を目標としております。

初年度である2021年度は、売上高、営業利益とも計画をクリアできる見込みであり、良好なスタートを切れたと考えております。

引き続き、中期経営計画2024の諸施策に中電工グループ一体として取り組み、目標達成に努めてまいります。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

## 中期経営計画2024（人材の確保・育成）

### 定期採用者数

|        |        |        |        | 2021.10.1現在 |
|--------|--------|--------|--------|-------------|
| 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度      |
| 132名   | 133    | 119    | 138    | 135         |

### 年齢別構成(個別)



### 有資格者数

| 資格名              | 取得者数   |        |    |
|------------------|--------|--------|----|
|                  | 18年10月 | 21年10月 | 増減 |
| 電気工事施工管理技士(1.2級) | 1,037名 | 1,123  | 86 |
| 管工事施工管理技士(1.2級)  | 278名   | 285    | 7  |
| 技術士              | 54名    | 62     | 8  |

※施工管理技士(電気工事・管工事)の複数取得者 59名

30歳未満が約3割

若年社員の成長

技術力・施工力UP

次に、当社の一番の財産であり、中期経営計画の達成に欠かせない人材の確保・育成についてご説明いたします。

近年、売り手市場で採用活動は厳しい状況が続いていますが、当社は130名前後の採用を継続してきており、2021年度も135名を定期採用しております。

円グラフを見ていただくと分かりますように、30歳未満の若い層が約3割を占めており、こうした若い層の育成により、今後さらに当社の技術力・施工力は向上していくと考えております。このため、若い層の早期育成、戦力化に努めており、特に必要とする電気工事や管工事の資格取得を推進しております。

この結果、有資格者数も増加し、技術力・施工力の向上とともに、売上高増加の原動力となってきております。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

### 資本政策の具体策

#### 持続的な成長のための投資

事業の拡大や人材の確保・育成等、持続的成長に向け、400億円規模の投資を実施する。

- コアおよびコア周辺事業等のM&A
- 人材育成・働き方改革
- 自社の脱炭素化
- 脱炭素化支援として環境関連ビジネスの推進
  - 自家消費型太陽光PPA事業、ESCO等の省エネ提案
  - 再エネへの投資
- 将来有望事業等への投資

次に、資本政策の具体策についてです。

持続的な成長のための投資として、400億円規模の投資枠を設けております。具体的には、M&Aをはじめとする事業の拡大や、再エネへの投資、自社の脱炭素化や、お客様の脱炭素化支援のPPA事業などに取り組んでおります。



## 中期経営計画2024（株主還元）

### 株主還元

持続的・安定的な配当を行うことを重視し、DOE（連結株主資本配当率）2.7%を目処に配当を行う。  
また、経営環境等を総合的に勘案したうえで、必要に応じて自己株式取得を実施する。

### 配 当

2021年度予想・DOE 2.75%, 年間1株当たり配当金 104円

【参考】配当利回り 4.82%（2021年11月10日 終価 2,157円）  
連結配当性向（予想） 84.1%  
連結総還元性向（予想） 104.3%

### 自己株式

2021年度・・・取得株式数:60万株（取得価額 13億円）

【参考】（2021年9月末現在）  
発行済株式の総数 5,813万株（うち自己株式数299万株）

次に、配当政策についてです。

株主還元につきましては、持続的・安定的な配当を行うことを重視しており、引き続き DOE、連結株主資本配当率 2.7%を目処に配当を行ってまいります。

また、経営環境等を総合的に勘案した上で、必要に応じて自己株式を取得することとしております。

配当につきましては、2021 年度の予想で、DOE2.75%、年間 1 株当たり配当金 104 円、配当性向は 84.1%としております。

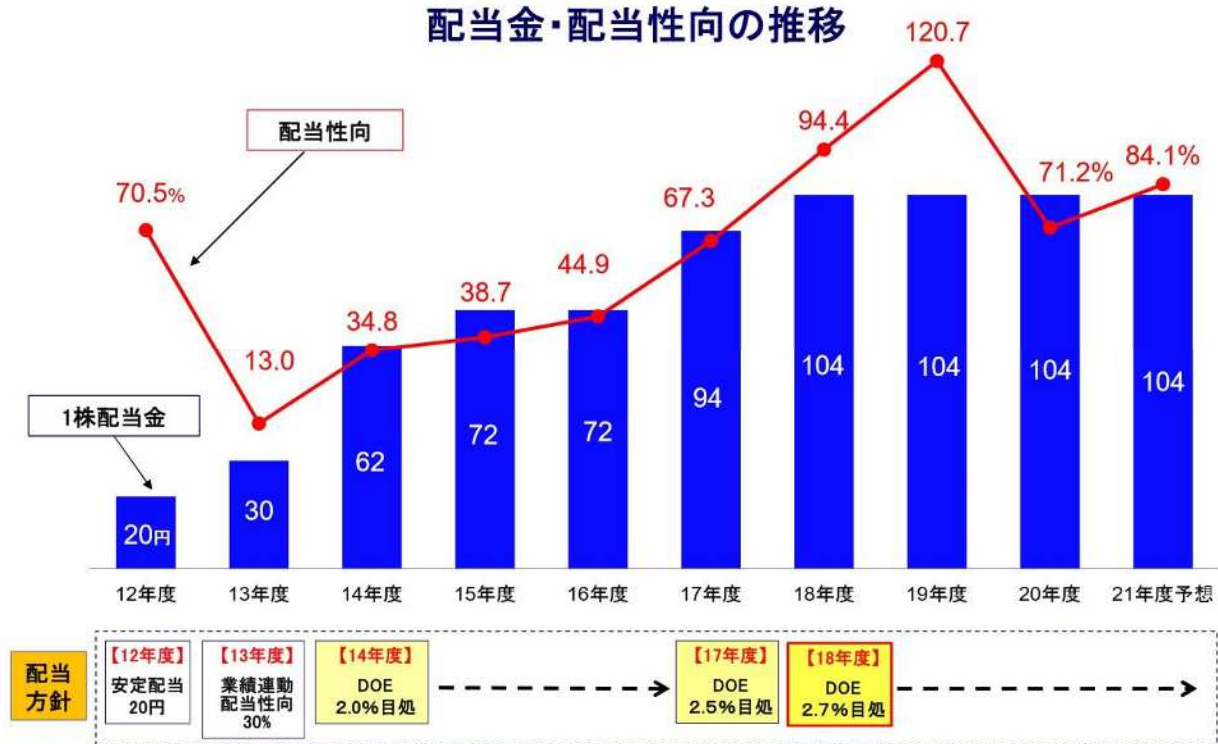
自己株式の取得につきましては、株主還元の充実や資本効率の向上のため、本年 8 月に 60 万株を取得しており、総還元性向は 104.3%を予想しております。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

## 中期経営計画2024（配当金・配当性向）

### 配当金・配当性向の推移



25

Copyright©2021 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

続きまして、配当金と配当性向の推移です。青の棒グラフが1株当たりの配当金、赤の折れ線が配当性向を示しております。

2014年度にDOEを採用し、2%目処から17年度には2.5%、18年度には2.7%と、率を上げながら増配をしてきております。2021年度も20年度と同額の104円の配当を予想しており、中間ではその半分の52円を配当することとしております。同業他社と比べても配当金や配当性向など、高い水準にあります。

## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## その他（ESGへの取り組み）

### 中電エレポート2021（統合報告書）の発行

- 本年9月30日に中電エレポート2021を発行，Webサイトに掲載。
- ESGへの取り組みなど，幅広く情報を提供。



最後になりますが、当社は財務情報に加え、ESG への取り組みなど、幅広く情報を提供するものとして、統合報告書である中電エレポートを発行しております。

今年の 9 月 30 日に中電エレポート 2021 を発行し、Web サイトに掲載しておりますので、ご覧いただければと思います。

以上で説明を終わります。なお、以下の資料は参考資料であり、説明は省略をいたします。

ご視聴ありがとうございます。

## サポート

|         |              |         |                         |
|---------|--------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 03-4405-3160 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744 | メールアドレス | support@scriptsasia.com |

## 質疑応答

---

**司会：**それでは、次に、質疑応答に移ります。

まず、最初のご質問を読み上げさせていただきます。

足元の受注環境について、民間建築工事の受注時採算の低下は見られますでしょうか。

社長、ご回答ください。

**迫谷：**まず、この足元での受注状況についてご説明をしたいと思います。

一時期、コロナの影響で設備投資が縮小といったようなムードもありましたけれども、現在のところ、製造業などにおいて着実にコロナ前の状況に戻っていると思っております。そういったことから、当社においては、その受注面ではコロナ中も、あるいはコロナ後も併せて堅調に推移をしているというのが私どもの実感であります。

ただ一方で、オリンピックの需要のピークを過ぎたというところもありまして、需要が全体としては少し下がっている感があります。そういったことから、受注面での競争が非常に激しくなっているというのは感じております。

そういった中で、私どもは中計で目標としている利益をしっかりと出していくために、生産性の向上や効率化をしっかりと進めていくことで、目標を達成していきたいと考えているところであります。以上でございます。

**司会：**ありがとうございました。

ご質問は以上でございますが、時間はまだございますので、日頃、投資家の皆様からよくご質問いただく内容についてご回答させていただきたいと思えます。

それでは、質問を読み上げさせていただきます。

コロナの影響は、業績にどの程度影響を与えていますかとのご質問です。

社長、お願いいたします。

**迫谷：**コロナによる事業への影響は、大きな影響はなかったのが実感であります。当社においても、感染者が何人か発生いたしましたが、事業は安定的に継続して行っておりまして。

---

### サポート

|         |              |         |                         |
|---------|--------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 03-4405-3160 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744 | メールアドレス | support@scriptsasia.com |

また、空調管関係の機器で、一部部品の納入が遅れたりすることはございましたけれども、全体としては大きな影響は受けずにこれまでやってきているということでございまして。コロナの影響としては軽微であったと考えております。

引き続き、コロナの感染の拡大の状況等を注視しながら、しっかりと事業を進めてまいりたいと考えております。

**司会：**続いての質問です。

中計 2,100 億円の達成には、現状から 200 億円以上積み上げる必要がありますが、具体的なイメージはございますか。

社長、よろしくお願いいたします。

**迫谷：**現状の売上から目標の 2,100 億円までには、約 200 億円程度の積み上げが必要ということでございますが、中電工は約 120 億円、グループ企業で 90 億円の増加を見込んでおります。

当社においては、生産性の向上や、これまで継続的に採用してきました技術者の育成により、有資格者が順調に増加をしてきておりまして、当社の 120 億円という数字は十分達成可能な数字と考えております。

また、グループ企業においても、体制の強化や効率化、さらには生産性向上にもしっかりと取り組んでおりまして、グループ企業全体で 90 億円は十分達成可能な数字であると考えております。

**司会：**次の質問です。

400 億円の成長投資を実施するとしておりますが、主にどんな取り組みを考えていらっしゃいますか。

**迫谷：**この 4 年間で 400 億円の投資枠を設定しておりますが、具体的には事業の体制強化のための M&A や、再エネへの投資を検討いたしております。M&A では、空調管関係をはじめ、よい会社があればグループ化していきたいと考えております。また、将来有望な事業等があれば、既存の事業の枠にとらわれることなく取り組んでいきたいと考えております。

再エネへの投資については、メガソーラークラスの大規模案件も含めて、しっかりと対応していきたいと考えております。

以上であります。

---

## サポート

|         |              |         |                         |
|---------|--------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 03-4405-3160 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744 | メールアドレス | support@scriptsasia.com |





**司会：**ありがとうございます。続いての質問です。

DOE2.7%を目処に配当を行うのは、前中計と同じですが、潤沢な自己資本の状況から、もう少しDOEの比率を上げることは考えられませんか。

**迫谷：**当社の配当政策につきましては、持続的、安定的な配当を行うことを重視し、現状、DOEを採用して、2.7%、1株当たり104円の配当を行うこととしております。この水準や配当性向は、同業他社と比べてもかなり高い水準にあります。当社としましては、当面はこの水準をしっかりと維持をしていくことに努めてまいりたいと考えております。ご理解をいただきたいと思えます。また、自己株式の取得についても、必要に応じて進めていく考えであります。

以上です。

**司会：**続いての質問です。

政策保有株式の状況はどうなっていますでしょうか。

**迫谷：**当社は、グループの中長期的な企業価値の維持向上につながると判断した場合、株式を政策的に保有いたしております。毎年の見直しの中で、経済合理性や保有目的の適切性などの点検を行い、継続して保有する合理性がないと判断した場合は売却を進めるなど、政策保有株式の縮減に努めております。

また、当社株主の中でも、持ち合い株の解消を進めている企業もあり、実際に売却したいと申し入れも来ておりますが、その都度個別に対応をしているところでございます。以上です。

**司会：**続いての質問です。

脱炭素化はどのように取り組んでいきますか。

**迫谷：**当社の事業に関わる脱炭素化を進めるとともに、お客様への脱炭素化支援事業を推進していきたいと考えております。

先ほどの事業の中期経営計画の説明の中でも申し上げましたが、当社の脱炭素化については、事業所の電気の再エネ化として、太陽光発電の設置、さらに営業車も電気自動車の開発動向等を見ながら、EV化を検討していきたいと考えております。

**司会：**ありがとうございます。続いての質問です。

DXの取り組み状況を教えてください。

---

## サポート

|         |              |         |                         |
|---------|--------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 03-4405-3160 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744 | メールアドレス | support@scriptsasia.com |



**迫谷：**DX は、効率化や生産性向上による競争力強化という面で、極めて重要な取り組みと考えております。このため、本年1月にDX推進プロジェクトを立ち上げ、全社を挙げて取り組んできております。

まずは、本店を含めた各事業上のネット環境整備を行い、次に、DXを進めていくための課題として、現状のシステムや、さまざまな業務のデジタル化の可能性などについて検討をし、課題と対策を取りまとめました。

今後は、これらの対策と併せて、これまで進めてきたIT技術を使ったさまざまな効率化を、全社で共有しながら、計画的、着実に進めていくことといたしております。

## 参考情報（SDGsへの取り組み）

SDGsで掲げる17の目標等を参照し、4つの課題を選定。

当社の事業活動を通じ、ステークホルダーの期待に応えていくとともに、SDGsの実現を目指す。

| 課 題                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 中期経営計画における取組み                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>安全とコンプライアンスの徹底</b><br>                                                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 重大災害再発防止対策の実施状況の確認と基準ルールの徹底</li> <li>▶ 現場に即したリスク低減と不安全行動の排除</li> <li>▶ コンプライアンス意識の浸透に向けた教育の継続実施</li> <li>▶ 「心と体の健康管理」の充実</li> <li>▶ 新型コロナウイルス等の感染症予防対策の実施</li> </ul>                     |
| <b>安心・高品質な設備の提供</b><br>                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 高品質な電力設備工事および迅速な災害復旧対応</li> <li>▶ 地中線工事、自営線工事の取り組み強化</li> <li>▶ 工程内検査等の品質管理体制の充実・強化</li> <li>▶ お客さまとのコミュニケーションの充実による迅速できめ細やかな対応</li> <li>▶ DXの推進による生産性向上</li> <li>▶ 技術研究開発の促進</li> </ul> |
| <b>脱炭素社会の実現</b><br>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 太陽光発電等の再エネ案件を中心とした環境関連ビジネスへの参画</li> <li>▶ 自家消費型太陽光PPA事業</li> <li>▶ ZEB・ESCO等、省エネ提案の取り組み強化</li> <li>▶ 自社での脱炭素の取り組み</li> </ul>                                                             |
| <b>人材育成と多様性社会の推進</b><br>                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ グループ全体での技術・技能者の確保・人材育成の推進</li> <li>▶ 中電工協会・グループ企業との連携強化</li> <li>▶ 中電工協会会員への技術教育等のフォロー</li> <li>▶ 働き方改革の継続および実践、働きがいのある職場の形成</li> <li>▶ ワーク・ライフ・バランスおよびダイバーシティの推進</li> </ul>             |

Copyright©2021 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

**司会：**次の質問です。

SDGs へ具体的にどう取り組んでいけますか。

**迫谷：**当社の業務は、SDGs の 17 の目標と密接につながっております。そのつながりを社員一人一人が意識をして仕事をする事で、SDGs の目標達成につなげていくことが重要と考えております。

## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

そうした観点から、中期経営計画 2024 の主要施策と、SDGs の 17 の目標を紐付けいたしまして、安全とコンプライアンスの徹底、安心・高品質な設備の提供、脱炭素化社会の実現、人材育成と多様性社会の推進という四つの課題を選定いたしまして、取り組んでいくことといたしております。

**司会：**次の質問です。

東証の新市場区分への対応については、どのようにお考えですか。

**迫谷：**今年の 7 月に東証より判定結果通知を受領いたしております。それは、プライム市場、スタンダード市場どちらの基準も満たしているということでございます。現在、いずれを選択するかを検討しており、年内には方針を決定し、お知らせしたいと考えております。

**司会：**続いての質問です。

第 2 四半期は減収・減益ですが、通期で増収・営業利益増益を見込めますか。

**迫谷：**近年、当社の工事、大型化が進んでおります。大型工事は、工事の進捗に合わせて売上高を計上しております。第 2 四半期では、一部の大型工事は工程の立ち上がりが遅れ、進捗が遅れたことで、減収・減益となりました。今後、進捗の遅れが解消され、増加をしている繰越高が売上高に計上していくことで、通期では増収・営業利益増益を予想しているところであります。

**司会：**次の質問です。

昭和コーポレーションの現状はいかがですか。

**迫谷：**昭和コーポレーションについては、一昨年買収をしまして、成長戦略を策定し、計画的に取り組んできているところです。昭和コーポレーションの売上高は、第 2 四半期で大型の工事の遅れがありまして、前年度より 12 億円程度減少しておりますが、通期では大型工事の遅れを解消し、また、原材料の高騰を販売価格に転嫁をすることで、前年を 10 億円上回り、210 億円の売上となる見込みでありまして、計画をクリアすると考えております。また、営業利益についても前年とほぼ同額の 12 億円で計画値をクリアする見込みであります。

そういったことから、昭和コーポレーションも事業は計画どおり順調に進んでいると把握しております。

**司会：**次の質問です。

ESG への取り組み状況はいかがですか。

---

## サポート

|         |              |         |                         |
|---------|--------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 03-4405-3160 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744 | メールアドレス | support@scriptsasia.com |



**迫谷：**当社は、従来から事業運営において、環境負荷の低減、社会貢献活動や女性活躍の推進、CG コードへの対応など、環境、社会、ガバナンスを重視した取り組みを実施してきております。

また、近年では、企業に対し、これまで以上に ESG にしっかりと対応しながら利益を出して、成長することが求められております。当社においても、安全とコンプライアンスを最優先に、脱炭素化の推進や、人材育成の強化など、中期経営計画 2024 の事業運営の基盤や諸施策に掲げており、ESG に対し着実に取り組んでまいります。

**司会：**ここで、ご質問を頂戴しましたので、読み上げさせていただきます。

ゼネコンでは粗利率が悪化傾向ですが、受注環境に変化はありますでしょうか。また、都市部では厳しい競争下でも拡大を目指すのか、受注スタンスについてもあらためて教えてください。

**迫谷：**確かに、先ほども少し触れましたが、オリンピックの需要がなくなったということで、全体の需要としてはピークから少し下がったところにあると。そういった中で、競争が厳しくなっておりまして、なかなか利益が出しづらい状況にあるというのは認識をいたしております。しかしながら、そういった厳しい状況の中にあっても、しっかりと効率化、あるいは生産性向上に努めていくことでこれを乗り切っていく必要があると考えております。

私ども、先ほども事業の説明の中で申し上げましたが、中国地域をしっかりと維持しながら、都市圏を拡大していくことで成長を維持していくという成長戦略を持っておるわけではありますが、この方向性については、引き続き堅持をするといいますか、この方向でしっかり対応していきたいと考えております。そのための中国地域、そして都市圏も含めました体制の強化、あるいは効率化もしっかりと引き続き進めていくということで考えております。

以上でございます。

**司会：**ありがとうございました。それでは、頂戴したご質問等は以上となりますので、これで、株式会社中電工、2021 年度第 2 四半期決算説明会を終了させていただきます。

**迫谷：**どうもありがとうございました。

**司会：**本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。

[了]

---

## 脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

---

## サポート

|         |              |         |                         |
|---------|--------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 03-4405-3160 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744 | メールアドレス | support@scriptsasia.com |



## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

|         |              |         |                         |
|---------|--------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 03-4405-3160 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744 | メールアドレス | support@scriptsasia.com |